

学校法人 藍野大学 滋賀医療技術専門学校  
平成30年度 自己点検・自己評価について

1. 自己点検・評価について取り組み

平成14年3月、専修学校設置基準等の改正に伴い、専修学校において教育活動の状況についての自己点検・自己評価を行うこと、またその結果を公表することが努力義務化され、平成19年12月26日に義務化された。

本校では、昨年度より本校の教務委員会において、自己点検・自己評価実施体制や実施方法及び内容を審議し、今年度も6月～1月にかけて自己点検・自己評価に取り組んだ。

2. 実施体制、評価内容について

自己点検・自己評価の実施体制については、本校教務委員5名に、各学科長より指名された各科1名ずつを加えた7名により構成された。

評価内容については、文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン、項目別自己評価表(例)」、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の「認定評価」を参考に、本校に合致した「自己点検評価票」を作成し、実施した。

評価内容は、重点目標である「地震発生時の対応マニュアルの策定」、そして、1.教育理念、教育内容、2.学校運営、規程整備、人員体制、情報公開、3.学習成果、4.学生支援など、5.教育環境、6.学生募集、入学選考、7.社会貢献、8.法令順守について点検・評価を実施した。

ただし、6.学生募集については、2020年4月開学予定として専門職大学へ改組転換を計画しており、2019年度生の学生募集活動を停止したため、本年度は自己点検を実施していない。

なお、各項目の評価点数は3点満点とする。

3. 評価と課題及び対応策について

「重点目標（地震発生時の対応マニュアルの策定）」

◇評価点数 2.29点

◇評価内容

(現状・課題及び対応)

昨年度、学校保健安全法第29条に定められている危険等発生時における当該学校の職員がとるべき措置の具体的内容及び手順を定めた対処要領に基づき、「危機管理基本マニュアル」を策定し、制定及び運用に至った。

引き続き、今年度は地震発生時における教職員及び学生の対応について本校学生委

員会において審議を行った。

審議内容に基づき、地震発生時の対応マニュアル案を策定し本校の決議機関である運営委員会において制定及び運用に至ったが、教職員及び学生に対し周知まで行えていないため、今後、地震発生時の対応マニュアルを各学科の教員室及び事務室に設置し、教職員への周知徹底を図る。学生には次年度の消防避難訓練時に注意事項をアナウンスする予定である。

## 「1. 教育理念、教育内容」

◇評価点数 2.52 点 (昨年度 2.70 点)

◇評価内容

(現状)

教育理念・教育目的は、地域医療の発展に貢献できる人材の育成を教育指針としており、常に学生や教職員が意識できるようにしている。

また、昨年度の自己点検・評価においてカリキュラムポリシーが明文化されていないことが課題となっていたが、今年度、本校の教務委員会においてカリキュラムポリシーを策定し、9月開催の運営委員会において決議を行い、制定に至った。

ただし、学生には周知ができていないため、今後、講義概要（シラバス）等にかリキュラムポリシーを明記し、学生に周知する予定である。

(課題と対応)

カリキュラムポリシーについては学生へ周知ができていないため、今後、講義概要（シラバス）等にかリキュラムポリシーを明記し、学生に周知する。

臨床実習について、昨年度も課題に上がっていた学生の実習配置について、特定分野に偏った配置が未だ改善されていないとの意見もあり、学生が偏りなく経験できる実習配置及び実習施設の確保を検討して行く必要がある。

また、理学療法学科においては実習前後の OSCE が実施されているが、作業療法学科においては実施されていないため、要検討事項である。

## 「2. 学校運営、規程整備、人員体制、情報公開」

◇評価点数 2.27 点 (昨年度 2.57 点)

◇評価内容

(現状)

諸規程は法人・学校ともに整備されており、見直しも適宜行われている。学生に必要な諸規程については学生便覧において周知し、教職員については校内システムにて諸規

程を閲覧できるようにしている。

事業計画書及び事業報告書、予算書、決算書については学校法人において作成されている。また、事業報告書及び予算書、決算書、監査報告書などの備え付けは勿論のこと、ホームページや法人冊子において一般に対し積極的な公開も行われている。

教育に携わる人員については、法令を遵守し配置できている。

また、教育に必要な教材購入や機器・施設の整備については、毎年、出来る限りの予算措置を講じ、教育に支障を来たさないように取り組んでいる。

(課題と対応)

2020年4月より指定規則及びガイドラインが改定となり、ガイドラインの中で専任教員は所定の講習を受けなければならないこととなっているが、受講できていない者もいるため、受講させていく。

また、教員の取得学位について、最終取得学位が学士または専門士である教員もいるため、積極的に研鑽を積み、修士や博士を取得するよう促していく。

### 「3. 学習成果」

◇評価点数 2.81点 (昨年度 2.67点)

◇評価内容

(現状)

国家試験の合格率は全国平均を上回っており、不合格者へのフォローアップ体制も十分できている。

(課題と対応)

昨年度から引き続き、学業達成率(3年間で卒業した人数÷入学者数)が、未だ低い水準である。

学生及び保護者も含め、面談や懇談会の機会を用い、積極的にフォローアップを行う。

### 「4. 学生支援など」

◇評価点数 2.48点 (昨年度 2.33点)

◇評価内容

(現状)

保護者懇談会や個別面談を通して、学業成績などの就学状況や家庭での様子、就学上

の要望や悩みを学生本人と保護者、教員の三者で共有し、就学継続の支援体制を構築している。

就職支援については、本校独自の就職説明会を開催し、求人先と学生を直に話す機会を設け、ミスマッチの軽減に取り組むことができている。また、学生の就職後も意識し、求人先の病院・施設との連携やフォローアップ体制も構築できている。

(課題と対応)

就学継続の支援体制は既述のとおり、保護者を含めた協力体制は構築しているものの、精神的な不安を抱えた学生への対応は細かなところまで十分に行き届いているとは言いきれず、専門職が必要であると思われる。現状においては、心理学担当講師に協力いただいているが、定期的な実施は困難であるため、週に 2 日程度、非常勤カウンセラーによる指導を受けられる体制をつくる必要がある。

また、2年連続で試験成績が不合格となり、学則により退学せざるを得ない学生もおり、自身の努力不足は否めないものの、同じカリキュラムを 2年連続で不合格になるという点では、早期からの学生の課題を発見し改善していくと共に、教育方法の見直しも適宜行っていく必要がある。

## 「5. 教育環境」

◇評価点数 2.64 点 (昨年度 2.67 点)

◇評価内容

(現状)

図書室の蔵書や設備については、適切に整備・更新することができている。

また、防火管理体制については、消防法に基づいた計画が策定できている。併せて、毎年、消防避難訓練を実施し、学生及び教職員に対する意識づけができている。

(課題の対応)

今年度の重点目標にも記述済みであるが、地震発生時の対応マニュアルが制定されたが、学生への周知ができていないため、消防避難訓練時に学生へアナウンスしていく。

## 「6. 学生募集、入学選考」

平成 31 年度生より学生募集を停止しているため評価を行わない。

#### 「7. 社会貢献」

◇評価点数 2.14 点 (昨年度 3.00 点)

◇評価内容

(現状及び課題と対応)

自治体事業やボランティア活動に積極的に参加し、地域に貢献することができている。  
諸活動の実績状況をとりまとめるシステムを構築したが、教員からの報告状況が芳しくない。次年度は定期的に活動内容を報告するようアナウンスを行う。

#### 「8. 法令遵守」

◇評価点数 2.71 点 (昨年度 2.00 点)

◇評価内容

(現状)

教育事業を行う上で、教職員の関係法令・規則の遵守は徹底できている。  
また、学生に対する実習における情報の取扱いも徹底できている。

#### 4. 総 評

◇平均点数 2.48 点 (昨年度 2.61 点)

本校では昨年度より自己点検及び自己評価を実施しており、昨年度の自己評価の平均点数 2.61 点から 2.48 点と評価点数を下げる結果となってしまった。

点数を下げてしまった一つの要因としては、昨年度 3.00 点であった重点目標が今年度は 2.29 点と大幅に点数を下げてしまったことである。

昨年度の重点目標は「危機管理基本マニュアルの策定」となっており、危機管理基本マニュアル案の策定を早期から進め、制定及び教職員への周知が行えたが、今年度の重点目標である「地震発生時の対応マニュアルの策定」については、マニュアル案の策定までに時間を費やしてしまい、制定までには至ったが、教職員への周知ができなかった。

その他、カリキュラムポリシーの周知徹底や臨床実習における実習配置の偏り、社会貢献活動報告の徹底など、改善できるものは次年度、早期に改善していきたい。

また、平成 32 年 4 月の指定規則及びガイドラインの改定及び本校の専門職大学への改組転換へ向け、教員の質の向上のため、修士や学士の取得及び専任教員向けの所定の講習受講を積極的に促していく。

以上